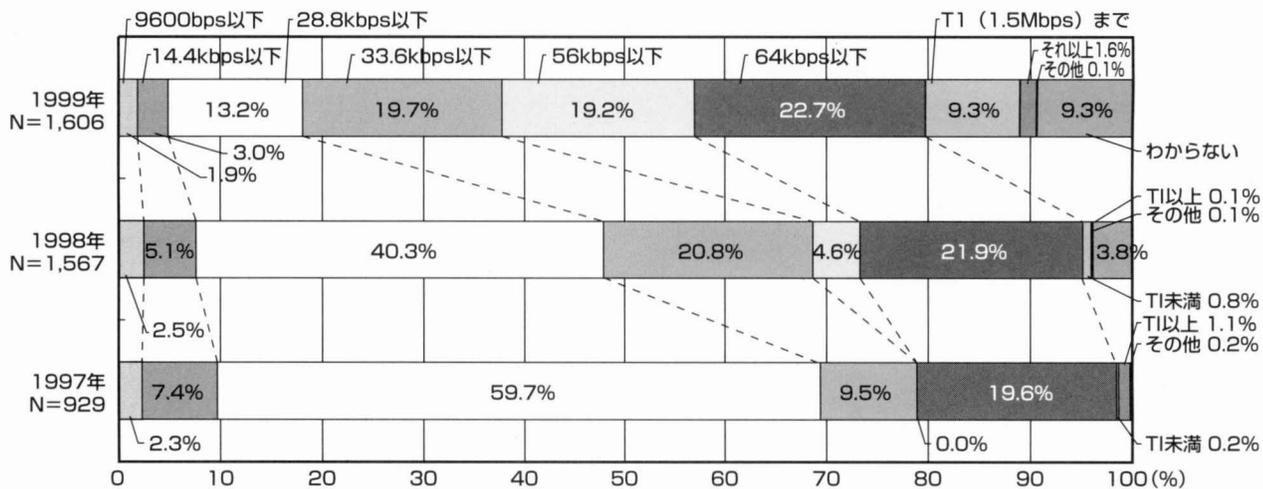


第2章 個人

通信速度、接続形態

高速化の傾向が顕著

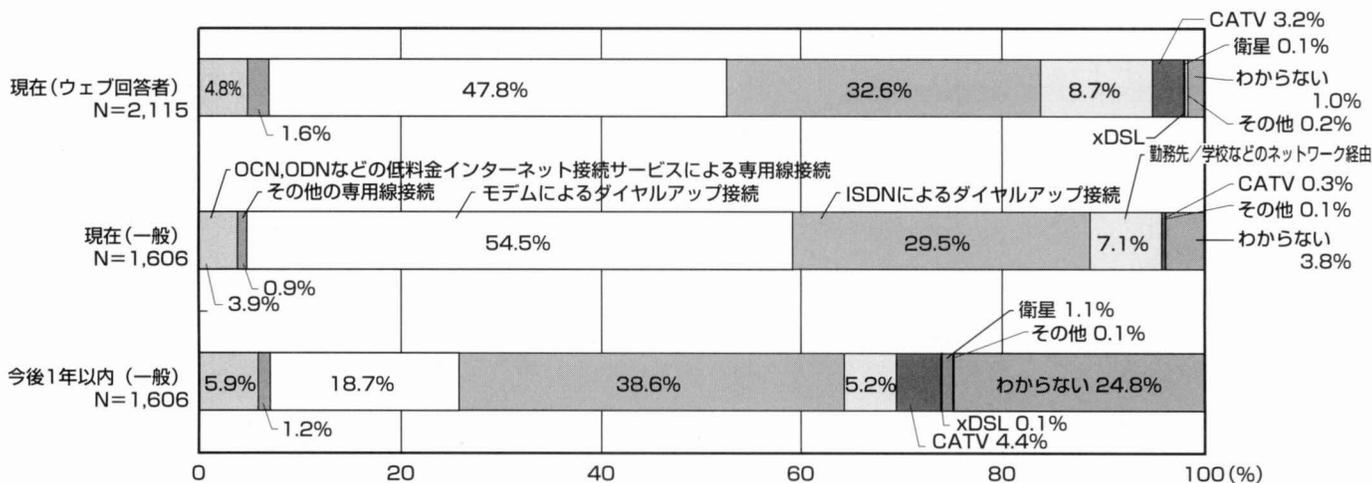
資料1-2-20 通信速度 (1997年-1999年)



注：1997年については、56kbps以下項目なし

インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-21 接続形態 (現在(一般・ウェブ)／今後1年以内)



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

解説

インターネットを利用する際の通信速度は高速な方向へと年々大きく変化している。

今年の調査では、「64kbps以下」(22.7%)が最も多く、次いで「33.6kbps以下」(19.7%)、「56kbps以下」(19.2%)であった。昨年最も多かった「28.8kbps」は40.3%から13.2%に半減し、この結果28.8kbps以下の合計は全体の18.1%にまで減少した。

接続形態は今年も過去2年の調査結果と同様「モデムによるダイヤルアップ接続」が54.5%と過半数を占めている。しかし、より高速な通信速度が確保できる「ISDNによるダイヤルアップ接続」が29.5%とこれに迫っており、今後1

年以内の予定で見れば、「ISDNによるダイヤルアップ接続」が38.6%、「モデムによるダイヤルアップ接続」が18.7%と両者の比率は逆転している。

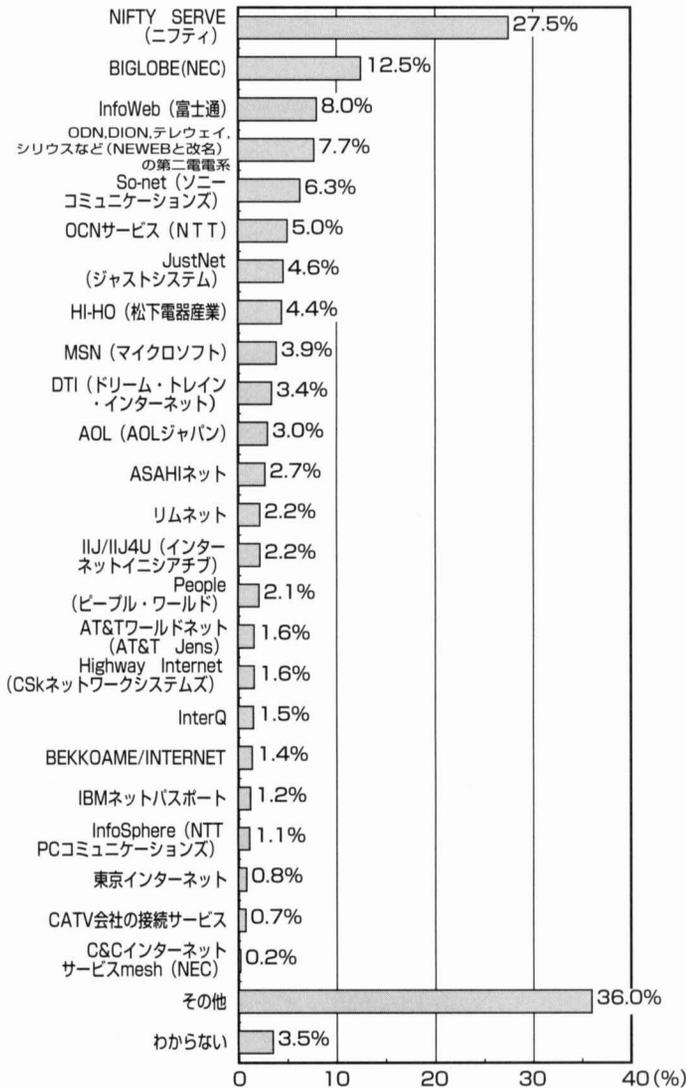
今後1年以内の予定では「OCN、ODNなどの低料金インターネット接続サービスによる専用線接続」も5.9%（現在3.9%）となっており、コストに敏感な個人利用者にとっては魅力があるようだ。また「CATV」を利用した接続にも4.4%（現在0.3%）と期待が高いことがうかがえる。

一般回答者と比較するために「ウェブ回答者」の調査結果をみると、現在の接続形態は、「一般回答者」に比べ「ISDNによるダイヤル

アップ接続」がやや高く31.2%に達しており、一方「モデムによるダイヤルアップ接続」(47.8%)も低くなっている。さらに「その他の専用線接続」(1.6%)や「CATV」(3.2%)といった高速な通信速度を確保できる接続形態の利用にも差がみられる結果となった。

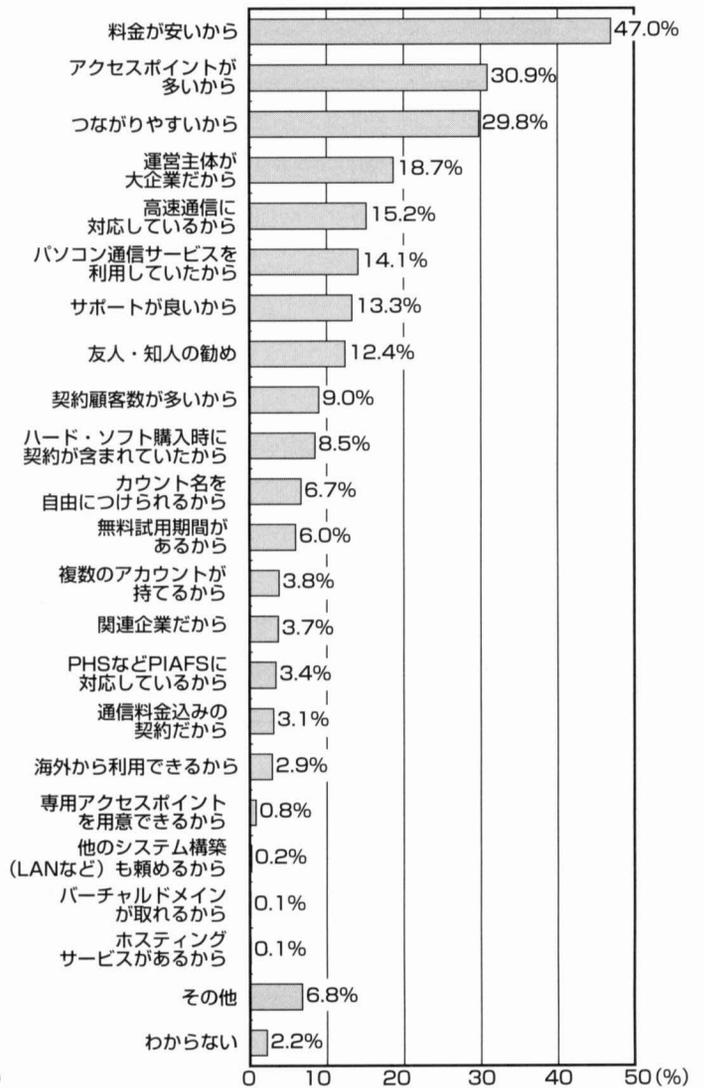
安さ、アクセスポイントの
多さがプロバイダー選びの決め手

資料1-2-22 契約プロバイダー N=1,606



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-23 プロバイダー選択理由 N=1,606



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

解説

個人利用者が現在契約しているプロバイダーの上位は「NIFTY SERVE」(27.5%)「BIGLOBE」(12.5%)、「InfoWeb」(8.0%)、「ODN,DION,テレウェイシリウスなどの第二電電系」(7.7%)、「So-net」(6.3%)となっている。また、1人当たりの平均契約数は1.4である。この調査以降、1999年3月31日付けで「NIFTY SERVE」が富士通の100%子会社になったため、InfoWebと合わせてプロバイダーの1位、3位が富士通ということになる。

今回の特徴としては、昨年上位に顔を出していた「MSN」と「リムネット」に代わって大手キャリア系のプロバイダーが上位に食い込ん

できたことがある。インターネット利用者は急激に増加しているとはいえ、アクセスポイントの設置や価格引き下げなど設備産業であるプロバイダーの競争には厳しいものがある。そのため、今後は体力のある大手企業が契約数の上位を占める傾向にある。

また、今回も地域プロバイダーなどを含む「その他」のプロバイダーの契約率は高く、昨年並みの36.0%となった。企業として体力を必要とされる全国展開を避け、特定地域に限定して利用者にきめ細やかなサービスを提供するプロバイダーへの支持も大きく、今後は全国展開をする大手プロバイダーと地域プロバイダーの2極

化傾向がますます進むと予測される。

プロバイダーの選択理由の上位は昨年と全く同じで、「料金安いから」(47.0%)、「アクセスポイントが多いから」(30.9%)、「つながりやすいから」(29.8%)であり、個人利用者がプロバイダーを選択する理由は、ほぼ固まっているといえる。特に最も大きな理由である接続料金の安さは昨年の40.2%をさらに上回っており、個人利用者にとってプロバイダー選びの最重要ポイントである。

(矢野よみ)

アクセスメディア インターナショナル株式会社)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp